九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

清泉女子大学文学部日本語日本文学科「日本近代文学講義３」（全学年）授業実践報告

藤枝，史江
清泉女子大学日本語日本文学科 ： 非常勤講師

https://hdl.handle.net/2324/6632445

出版情報：オンライン授業の地平 ： 2020年度の実践報告，pp.91-91，2021-04-30．雷音学術出版
バージョン：
権利関係：(C) 2021 The Author(s).

KYUSHU UNIVERSITY

清泉女子大学文学部日本語日本文学科「日本近代文学講義3」(全学年)授業実践報告

藤枝史江

1. 授業の目的と概要、授業内容、成績評価の方法等

本授業の目的は、芥川龍之介の『大阪毎日新聞』の特派員としての中国旅行と、それをもとに執筆された『支那游記』(紀行)と『湖南の扇』(小説)を扱い、芥川龍之介の時代意識の一端を読み取り、そのことがどのように作品化されているかを考察することである。当初は『支那游記』に収録された紀行文全てを概観する計画であった。具体的には、第1回目にガイダンスとして芥川龍之介の生涯を幼少期の写真で追いながら実際の中国旅行の資料(地図・写真・書簡・取材メモなど)を参照し、第 2、3 回目に『上海游記』、第 4、5 回目に『江南游記』、第 6、7 回目に『長江游記』、第 8、9 回目に『北京日記抄』、第 10、11 回目に『雑信一束』を扱い、『支那游記』の通読によって芥川の中国旅行を追体験し、第 12、13 回目で『湖南の扇』、第 14 回目は作品ごとに行った先行研究や周辺資料を振り返り、第 15 回目にまとめと試験の予定であった。

進め方は、各作品に入る前に作品を読了するよう学生に指示を出しつつ、本文の必要箇所と資料のコピーを毎回配布する講義形式を予定していた。授業の最後にリアクションペーパーに講師の読解と自分の読解との差異や疑問などの意見を記入させ、次回の授業で講評と質疑応答を行い、学生の主体的な考察を導く計画であった。評価は第 15 回目の試験(考察の程度を問う論述や知識問題)によって行う予定であった。

実際には、5月 7 日から「学びの泉」という清泉女子大学の学修支援システムを活用した全面遠隔授業を行うこととなった。PDF 化した資料の掲載・YouTube による受講者限定の授業配信・テストやレポートの実施・質疑応答・お知らせの発信といった、授業に必要なあらゆることを網羅した学修支援システムが授業を支えた。授業の開始日までは勿論、開始後も清泉女子大学の情報管理センターから学修支援システムの使い方や注意が細やかにメールで伝達され、例えば Zoom を使用しないといったことをはじめとする授業方法の取捨選択をしていった。学生のアクセス集中を防ぐため、前もってレジュメや資料を「学びの泉」に掲載するという大学からの指示も厳守した。

当初の予定との大きな違いは、扱う予定であった作品を、『上海游記』と『湖南の扇』の二つに絞ったことである。理由は自宅で授業を受ける学生が作品を入手できないためである。青空文庫により読むことができる作品で、芥川の中国旅行について考察の一端を成立させ得る作品という観点で選別した。さらに、リアクションペーパーの記入を、「学びの泉」の機能を利用した授業後の小テスト(一問一答や複数回答といった選択問題)に変更した。時には、やはり「学びの泉」のレポートやアンケートの機能を用いた記述式の課題を小テストに代えて行った。「学びの泉」を利用した学生からの質問には随時対応した。

2. 今後の課題・可能性、もしくは受講生の反応等

リアクションペーパーの利用によって考察力を向上させていた昨年度までに比べ、記述式の課題に見られる学生の到達レベルの低さをオンライン授業でどのように向上させていくかが課題である。学生の主体的な興味や関心を誘発する授業展開を工夫する必要があると実感する。一方で、「学びの泉」の活用による資料配付は、欠席者へのスムーズな対応が可能になるなど、対面授業においても活用すべきであると感じた。